

まちづくりNEWS

旭川市総合計画市民検討会議

第4分科会 vol.1

平成26年7月30日

(発行元)

旭川ウェルビーイング・コンソーシアム

旭川市1条通8丁目 フィール旭川7階

TEL/FAX 26-0338

(委託者)旭川市総合政策部総合計画課

第4分科会での議論がスタート！

平成26年6月17日(火)に、第1回旭川市総合計画市民検討会議第4分科会が開催されました。

平成28年度からの新たな総合計画の策定に向けた検討を行うために設置された検討会議において、この第4分科会は、これからの旭川市の「産業・交流」についての議論を行っています。

今回の会議では、皆さんからの自己紹介が行われた後、まず、団体推薦委員のお話と題し、4名の団体推薦委員(うち1名の委員は欠席のため、岡田座長が代理)から、各業界の現状、課題などについてのお話が行われ、その後、そのお話の内容などをもとに、委員全員によるフリートークが行われました。

団体推薦委員のお話及びフリートークの発言の要旨は以下のとおりです。

団体推薦委員のお話

委員発言要旨①

海外から北海道への観光客は年々増加しており、特にアジア諸国の観光客が増えている。そのアジア諸国の人々は、旭川のことを知らなくても、北海道のことは知っている。

そこで旭川空港の名前を「北海道中央空港」にしてはどうか。

北海道の中央にある空港というイメージにすることにより、現状の新千歳空港の利用客の一部を取り込むことができるようになる。新千歳空港の利用客の数%でも取り込むことができれば、旭川空港にとっては利用客が倍増する。空港のニーズが増加すれば、ハードの整備が不可欠となる。例えば、空港からのアクセスとして、富良野線を空港に引き込み、JRが直結すれば、全道各地へのアクセスも良くなり、まさに北海道第2の入口となる。

空港周辺のインフラ整備、周辺ホテル、飲食店、お土産など、人が動けば経済も活性化する。

委員発言要旨②

旭川家具は、大雪山の周りにナラ、カバ等の広葉樹資源があり、これらの豊富で優良な木材に下支えされ、産業として成長してきた。

日本は森の国とよく言われているが、日本の森林は不健康な森林であり、健康な森林を取り戻さなければならない。手つかずの森林が素晴らしいとよく言われるが、実はそうではなく、森林も人間が積極的に関与して育てなければならないものである。

北海道には全国の27%の広葉樹があり、旭川家具としてはこれを使わない手はない。地方自治体も地元の材料をもっと使わなければならない。

国内で地元の広葉樹を使って家具を作ることができる産地は、旭川以外にはない。自然が豊富であるという旭川家具の原点を生かして旭川家具を伸ばすことができれば、地元経済にも貢献できると考えている。



委員発言要旨③

百貨店の全国の売上高はピーク時の65%程度まで落ち込んでいる。また店舗数も年々減少を続けている。

百貨店業界の最近の課題のひとつとして、「オムニチャネル」がある。

「オムニ」は「全ての」などという意味であり、「全てのチャネル」ということ。小売業の中で、実際の店舗とネット通販等を結びつけるというものである。例えば、実際の店舗で実物の商品の素材等を確認し、後でネット通販でその商品を注文するという買い物の仕方の場合、百貨店の売上げはない。だが、ひとつの企業体で百貨店とネット通販の両方を持っていれば、全体の中での売上げは上がる。このような方法も生き残りの策のひとつ。



旭川は、決して高いものが売れない土地ではない。去年の冬に、これまで地元の人の感覚では売れないと考えられていた高額のコートを試しに数着仕入れたところ、すぐに売れてしまった。また、旭川の人については、旭川のことを大好きな人が多いという印象がある。一方で、変化を好まない傾向にあり、現状に満足し、おとなしいという気質があると思う。

委員発言要旨④

旭川の国際交流委員会は、国際交流基金を使い、様々な事業を行う目的で作られた。

当初は基金の利息を運用して様々な事業を行っていたが、徐々に利息も悪くなり、現在は、基金の取り崩しを行い、市からも助成金をもらいながらやっているところである。だが、事業はなるべく減らさないようにしている。

現在、国際交流ボランティアとしては、ボランティア・ガイド、ホームステイ・ボランティア、企画交流ボランティアがある。ボランティア・ガイドの中には医療通訳にも協力できると申請される方もおり、外国人が病気になったときに、医療施設から通訳の依頼があった際にはご協力をお願いしている。

外国人と交流する場所がなかなかないという問題はあるが、国際交流委員会としては、今後もできるだけ多くの外国人と市民との交流を続けていきたい。また、広告・PRの方法が難しいというのが現状であるが、やっていることを市民の方にもっと分かってもらえる活動も続けていきたい。また、市民の皆さん一人一人が、外国の人たちとの交流をもっと進めてもらいたいと思う。



フリートーク

皆さんの発言要旨

- 経済は、ひとつの業種だけで成り立つものではなく、いろいろな業種があり、産業全体の有機的な結びつき、人と人との結びつきが重要になってくると思う。
- 人をどうやって集めていくかということだが、コミュニティが存在しなければ、資金やアイデアがあっても無意味になる。
- 国際交流においても、観光と同様、来ていただいたときに喜んでもらえるようなこともできればよい。
- 百貨店で高額のコートが売れたという話にもあったように、これまでの既成概念にとらわれていた部分についても、視点を変えてみることで、まちづくりもいい意味で変化していけるのではないかと。
- 外に向かっては強いイメージやインパクトを与えることが大事である。また、今後は駅前の南口の開発がキーポイントになってくるのではないかと。
- 旭川の人には現状に満足している人が多いという話が出た。だが、表には出ていないが、旭川にも内包したパワーを持っている人はいると思う。そのようなパワーを表に出せるような会議にできればよい。
- 各委員からは、もっと夢物語のような話も聞いてみたい。買物公園も、実現が不可能といわれていたものが市民の力で実現したものである。
- 夢を語って現実にするという事は、それなりの覚悟がなければならない。
- ある問題点に対し、別の視点から眺めて解決策を探るなど、先入観にとらわれない考え方が必要になると思った。
- 成功している事例を見ると、その土地の人が気付いていなかったものであるという事例が多い。結局はもともと持っている強みを生かしたということになるが、それは自分たちでは分からない。それを知る方法は、外に行ってみるか、外の人に言ってもらおうかの2つしかない。
- 北海道の人は北海道が好きなのだと思う。だが、価値に気付いていない。北海道自体がブランドであるが、それに気付いていない。
- 明るい夢を持つのは大切なことであり、一般的に、まちを改革できる人は、よそ者、若者、馬鹿者といわれる。我々はよそ者でもなく、若者でもないのだから、馬鹿者になるしかないか。

今後の予定

今後の会議の日程について、第2回目は7月18日（金）に、第3回目は8月12日（火）に、第4回目は9月2日（火）に開催することになりました。